

よる人家裏崩壊の危険を心配され、この補助制度を利用される方が多いことから、本議会において予算の追加をお願いしています。

県単独、市単独ともに財政状況等を考慮すると、現時点で補助率を上げることが難しいのが実情ですので、ともに採択箇所を増やすという方向で、人家裏危険箇所の対応を図っていきたいと考えています。

肱川橋架け替え

問 事業計画について

答 肱川橋の架け替え事業については、橋の耐震性の問題点を改善するとともに、歩行者等の安全確保の観点から、平成21年度に事業化されました。その後、国土交通省に設置された「肱川橋周辺まちづくり検討委員会」が3回実施され、新しい橋のデザインや機能について検討され、本年7月28日開催の第3回公議をもって議論を終了しています。

新しい橋は、現在の位置に架け替えられますが、耐

震性の改善に併せて、現在1・75mしかない歩道が、両側ともに3mの自歩道へと拡張され、総幅員14・5m、全長184mの桁橋として生まれ変わる予定です。

また、国道56号交差点改良事業については、本年度から事業化され、橋の架け替えに併せ、肱川橋南詰から市役所前交差点に至る約200mの区間に3m幅の自歩道が整備されるものです。なお、新しい橋の完成までは、現在の橋のすぐ上流に仮設の橋を設けて、工事を進める予定となっております。

去る9月2日に、初めての住民向け説明会が国土交通省主催で開催され、関係地権者をはじめとする住民の皆さん約60名のご参加をいただきました。今後は杭の設置を行った後、本年度下半期から用地調査に入り、平成30年代前半には事業を完了させる予定となっております。

新しい肱川橋の親柱のデザインに関しては、第3回の「肱川橋周辺まちづくり検討委員会」において、「市と地元住民との協議の結果

に委ねる」とのご判断で、幾つかの案を提示するに留めていただいています。したがって、今後地元地権者の有志で運営されている「肱川橋通りまちづくり活性化会議」や、市が設置している「肱川橋周辺まちづくり生活・文化会議」においてご意見をいただくほか、地元の小・中学生の意見なども聞きながら決定していきたいと考えています。

鹿野川ダム

問 トンネル洪水吐き工事について

答 鹿野川ダム改造事業におけるトンネル洪水吐きについては、既存容量の1・45倍となる洪水調節容量を有効に活用するために設置されることとなっております。トンネル洪水吐きの規模については、肱川の河川整備基本方針で定められる100分の1の治水安全度を目標とし、現段階は河川整備計画に基づいた整備が進められています。ダム等の洪水調節施設の規模については、永久構造物であ

ることから、基本方針に対応できる能力で整備されることとなります。このことから、トンネル洪水吐きの能力についても、基本方針に基づく洪水調節容量を有効に運用するために毎秒1,000トンとして検討・決定されたものです。

次に、トンネル洪水吐きの操作マニュアルについては、当面は下流域に影響を与えないとされる毎秒600トン程度をトンネル洪水吐きで行い、その後流入量が増加する場合はクレストゲートを併用し調節される案を中心に検討を行っていると考えています。また、将来における操作については、下流の河道整備の進捗によって効果的な運用を順次検討されるということです。また、トンネル洪水吐きの位置については、ダム堤体に現在計画しているような大口径の穴は構造的にあげることができないと考えています。

トンネル洪水吐きによる予備放流での洪水調節容量を増大することについては、鹿野川ダム改造事業では洪水時に標高80m以下に確保

している河川環境容量の一部を標高76・3mまで予備放流することにより洪水調節に必要な容量を確保する計画となっております。肱川流域においては、治水対策とともに河川環境容量の確保も重要なことであることから、現在の計画以上に水位を下げることはできないと考えています。

山鳥坂ダム

問 生活再建事業と地域振興対策について

答 山鳥坂ダムの現状を踏まえた今後の取り組みとして、当市においては、生活再建に向け「大洲市生活再建資金融資あつせん及び利子補給交付要綱」を平成21年4月に制定しており、今後、用地等の先行取得に向けた体制づくりの検討など、事業が再開された場合に迅速に対応できるよう準備を進めています。

また、地域活性化及び地域振興については、平成20年12月に岩谷地区で承認いただいております「岩谷地域振興計画」を基本に、一